

# CASBEE<sup>®</sup> 新築[簡易版]

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	千春会 介護老人保健施設「春風」	階数	地上5F
建設地	長岡京市久貝1丁目117他	構造	RC造
用途地域	第一種住居、準防火地域	平均居住人員	400 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年2月 予定	評価の実施日	2010年4月12日
敷地面積	3,977 m <sup>2</sup>	作成者	川田 昇
建築面積	2,348 m <sup>2</sup>	確認日	2010年4月16日
延床面積	7,133 m <sup>2</sup>	確認者	〇〇〇



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

環境品質 G

環境負荷 L

### 2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能

Q1 室内環境

Q3 室外環境(敷地内)

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

LR3 敷地外環境

### 2-3 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

建設 修繕・更新・解体 運用

参照値

評価対象

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア= 3.1

**Q1 室内環境** Q1のスコア= 3.0

音環境 温熱環境 光・視環境 空気環境

**Q2 サービス性能** Q2のスコア= 3.1

機能性 耐用性・信頼性 対応性・更新性

**Q3 室外環境(敷地内)** Q3のスコア= 3.4

生物環境 まちなみ・景観 地域性・アメニティ

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア= 3.1

**LR1 エネルギー** LR1のスコア= 3.3

建物の熱負荷 自然エネルギー 設備システム効率化 効率的運用

**LR2 資源・マテリアル** LR2のスコア= 3.2

水資源保護 非再生材料の使用削減 汚染物質回避

**LR3 敷地外環境** LR3のスコア= 2.8

地球温暖化への配慮 地域環境への配慮 周辺環境への配慮

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>		<b>その他</b>
<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>西山の景観および近隣住宅地の環境を損なわぬよう、外壁の配色計画に留意し、地域に根差す介護老人保健施設であるよう配慮し設計をした。各階にある屋上部分に緑を配置し、将来的にみどりあふれる施設とした。</p>		<p>注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>
<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>居住系居室において、音環境では特に居室間および床面の遮音に配慮している。また大きな窓開口を採用し自然</p>	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>当該施設は介護老人保健施設であることを鑑み、利用者の利用する範囲ではすべてバリアフリー対応としてい</p>	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>敷地内において十分な緑化スペースを設けるとともに屋上緑化も取り入れている。また特に外壁の仕様はせつき</p>
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p>	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p>	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい